高槻市文化財調査概要36

嶋上遺跡群33

上群

2009

高槻市教育委員会

嶋上遺跡群 33

はしがき

高槻市教育委員会は、平成20年度も、市内各所におきまして個人住宅の建設等に先立つ埋蔵文化財の調査を実施してきました。また、本年度はとくに弥生時代有数の環濠集落である安満遺跡の保存を図るため、調査指導検討会の指導を受けて京都大学農場部分について範囲確認調査を実施しました。

市内遺跡の調査では、高槻城跡や津之江南遺跡におきまして個人住宅の建設に関わる小規模な調査を実施しました。高槻城跡では、戦国時代のキリシタン墓地の隣接地で、墓地の規模や立地条件を知る手がかりを得ることができました。また、津之江南遺跡、ミクリ遺跡、富田遺跡では開発にともなう調査を継続し、遺跡の規模や内容の把握に努めました。

安満遺跡では、よりよい保存の措置を講じるため重要遺構の検出に努めたところ、昭和43年に検出された環濠につながる遺構を検出し、多数の土器・石器類が出土しました。出土遺物のなかには、全国的にみても貴重な朱漆塗りの櫛が含まれています。昭和43年の調査でも、多量の木製品や朱漆塗りの櫛、カンザシが出土しており、弥生時代の豊かな生活や活発な生産活動を知ることができます。今回の調査で得られた成果を今後の調査や整備に活かしていくものです。

最後に、本書をまとめるにあたり、ご教示やご協力いただいた関係機関をはじめ、多くの方々に心から感謝申し上げます。

平成21年３月31日

高槻市教育委員会　文化財課
課長　森田克行

例　　言

1．本書は、高槻市教育委員会が平成20年度国庫補助事業（市内遺跡発掘調査等）として計画、実施した高槻市所在の史跡・嶋上郡衙跡附寺跡周辺部及び市内遺跡の発掘調査事業（総額14,500,000円）の概要報告書である。

2．事業は、高槻市教育委員会の直営事業として実施し、大阪府教育委員会の助力を得て、平成20年４月２日に着手し、平成21年３月31日に終了した。

3．調査は、高槻市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センターがおこなった。本書の執筆・図面作成・製図は、鐘ヶ江一朗、橋本久和、宮崎康雄、高橋公一、早川圭、西村恵祥、佐伯めぐみ、廣瀬智子がおこない、分担は文末に記した。遺構・遺物の写真撮影は鐘ヶ江・橋本が担当した。

4．調査の実施にあたり、以下に掲げる土地所有者の方々をはじめ、関係機関各位のご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。

森山慎一　堤修司　中田登　小林貴司　服部典之　日下部圭　伊達巧　東文紀

国立大学法人京都大学

目　　次

Ⅰ　高　槻　城　跡 …… 1

Ⅱ　ミ　ク　リ　遺　跡 …… 4

Ⅲ　津之江南遺跡 …… 7

Ⅳ　富　田　遺　跡 …… 9

Ⅴ　安満遺跡範囲確認調査 …… 10

Ⅵ　出土遺物保存処理 …… 18

No.	遺　跡　名（地区）	調　査　地	面積（m²）	届　出　者
1	高　槻　城　跡（2008－1）	大手町1134－1・2の各一部	48.85	個　　人
2	高　槻　城　跡（2008－2）	出丸町990－71他	55.08	個　　人
3	ミ　ク　リ　遺　跡（2008－1）	西町1041－33	16.56	個　　人
4	ミ　ク　リ　遺　跡（2008－2）	西町1041－32	53.67	個　　人
5	ミ　ク　リ　遺　跡（2008－3）	西町1041－40	60.93	個　　人
6	津之江南遺跡（2008－1）	津之江北町263－14	51.03	個　　人
7	津之江南遺跡（2008－2）	津之江北町263－12	53.46	個　　人
8	富　田　遺　跡（2008－1）	富田町六丁目2765－2	63.64	個　　人
9	安　満　遺　跡（範囲確認調査）	八丁畷町260・266	90.00	高槻市教育委員会

平成20年度　市内遺跡調査一覧

Ⅰ．高槻城跡

1．高槻城跡（2008－1）の調査

調査地は高槻市大手町1134－1、1134－2の各一部にあたり、小字は「椋樹」である。当該地は高槻城三ノ丸北郭地区の一画にあたり、西側では16世紀後半の木棺墓が27基検出されており、そのうちの1基に墨書の「二支十字」が描かれていたことから、高山右近にゆかりの深いキリシタン墓地として認識されている。今回、個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。

図1　高槻城跡（2008－1）調査位置図

調査は届出地の西寄り中央部に調査区を設けて行った。基本的な層序は表土・整地層（0.5～0.8m）、にぶい黄橙色シルトと灰褐色シルトがうろこ状に積み重なるブロック層（0.7～0.8m）、灰褐色砂質シルトの整地層（0.1m）、西側に向って傾斜する淡灰褐色シルト・灰褐色砂質シルト層の基盤層となる。このうち、うろこ状のブロック層は周囲の調査成果から元和3（1617）年に行われた高槻城三ノ丸修築に伴う盛土と考えられる。淡灰褐色シルト層は西側の調査で木棺墓を検出した遺構面と同質とみられる。

検出した遺構としては調査区の南西隅で柱穴を検出した。0.4×0.3mの方形で深さ0.5mである。うろこ状のブロック層を切り込んでおり、元和期以降のものとみられる。

今回の調査では直接キリシタン墓地に伴う遺構は検出できなかったが、前述のように木棺墓を検出した遺構面とみられる淡灰褐色シルト層を確認している。この層は西側に向って約23度で降る傾斜面となっており、東側での標高は8.35m、西側では7.7mを測る。当該地から約7m西側にある木棺墓の検出面の標高は7.25～7.45mであることから、この傾斜は墓地に向ってさらに傾斜しているものとみられ、キリシタン墓地の東側を区画する機能をもった斜面と考えられる。この斜面は、周辺の調査と比較すると標高が高く、地山とは考えにくいことから、盛土による土塁の西斜面の可能性もある。

キリシタン墓地の西南側には屈曲する溝が検出されていたが、これまで東側の広がりは不明であった。今回のこの斜面を確認したことから墓地の東西幅は約40mと推定される。

一方、この斜面の下半では灰褐色砂質シルトの整地層がみられ、この層の上部で杭を打ち込み、裏込めの盛土をし、斜面の土留めを行っている状況がみられる。これらは元和期の修築に先立つものであり、墓地の廃絶時の状況を推測する資料となる。（西村）

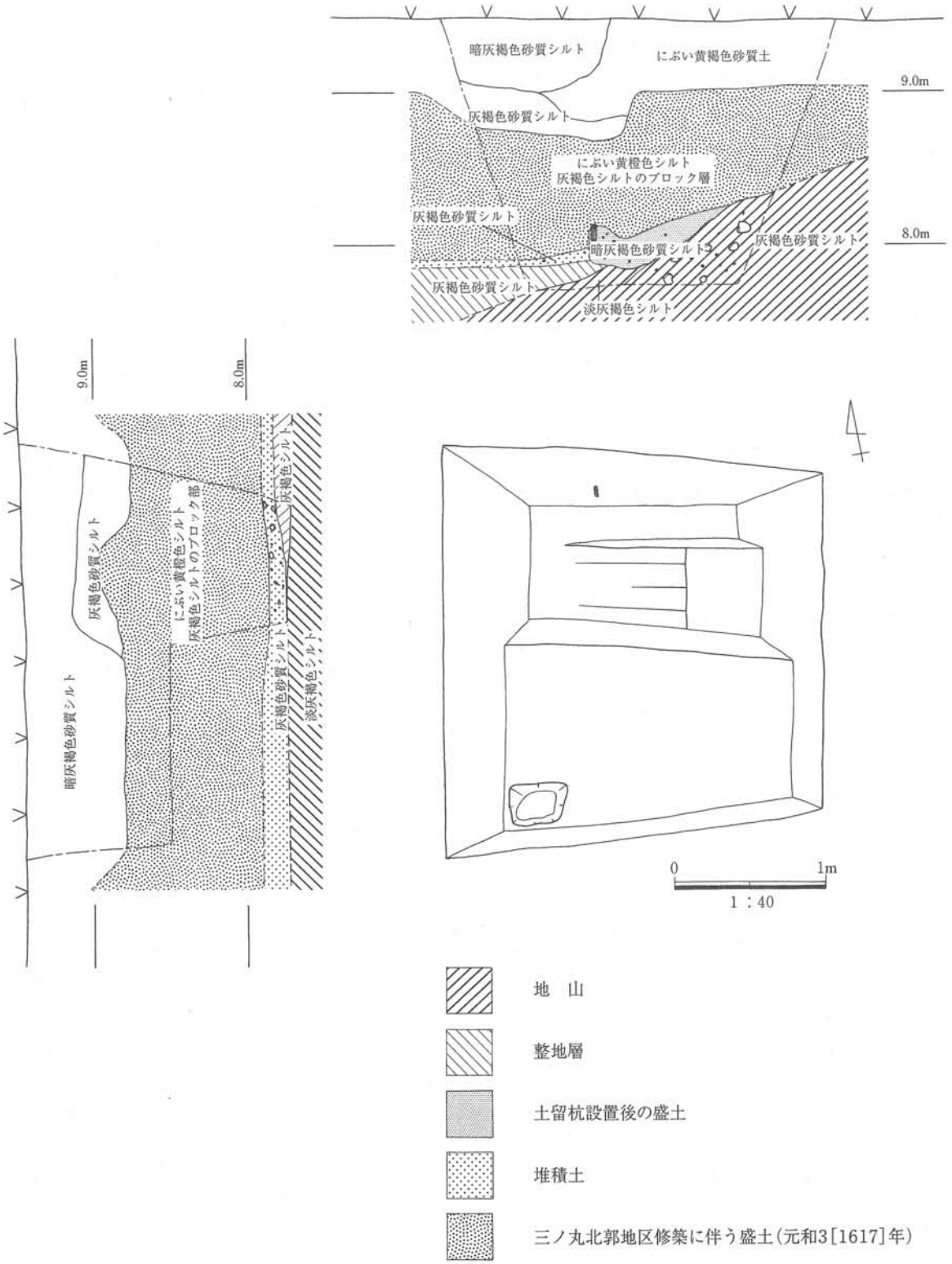


図2　高槻城跡（2008-1）

2．高槻城跡（2008－2）の調査

調査地は出丸町990－71番地他にあたり、小字名は「帯曲輪」であり、現状は宅地である。調査地は近世高槻城の本丸跡と西側の帯曲輪にはさまれた内堀に相当する位置にある。周辺では地表下約1.0mで堀の埋土とみられる青灰色粘土が確認されている。

個人住宅建設工事に先立って工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。盛土はコンクリート片・礫を含む暗褐色砂質シルトで、地表下0.85mまで確認できた。盛土はさらに厚く堆積しているため遺構・遺物は検出されなかった。

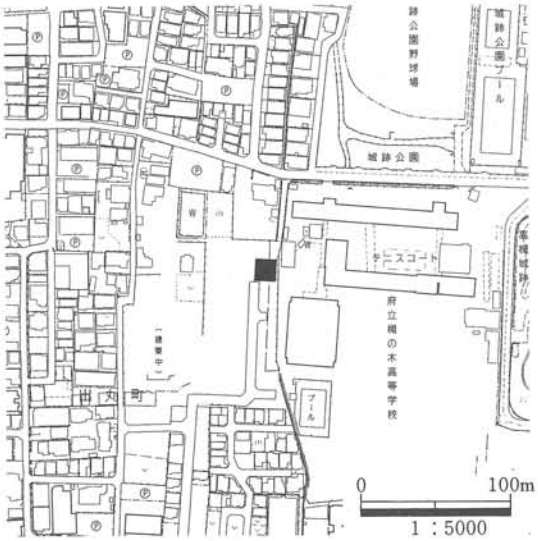


図３　高槻城跡（2008-2）調査位置図

（西村）

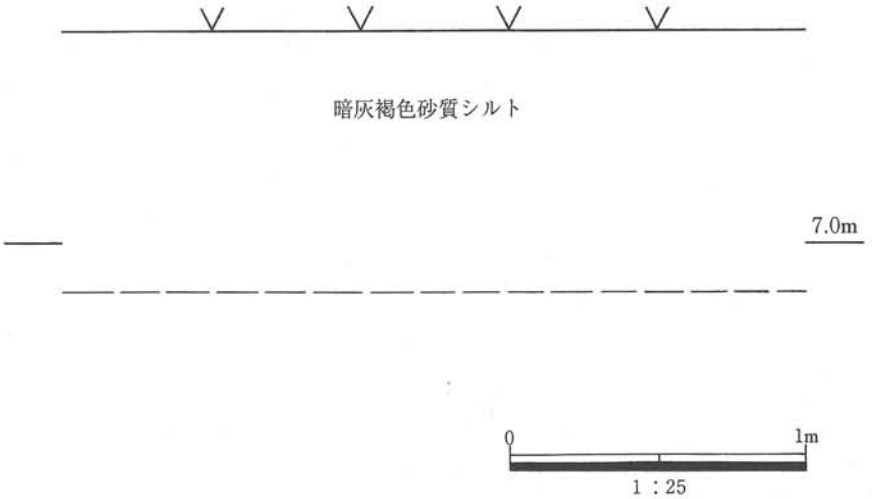


図４　高槻城跡（2008-2）土層模式図

Ⅱ．ミクリ遺跡

1．ミクリ遺跡（2008－1）の調査

調査地は高槻市西町1041－33番地にあたり、小字名は「井ノ尻」である。現状は宅地である。当該地の西約150mにある府道での調査で弥生時代中期の流路、古墳時代前期の水田、中世以降の耕作面が確認されている。

調査は個人住宅建設工事に先立ち工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。約0.7mの盛土が施されており、遺構・遺物は確認できなかった。

（橋本）

図5　ミクリ遺跡（2008－1）調査位置図

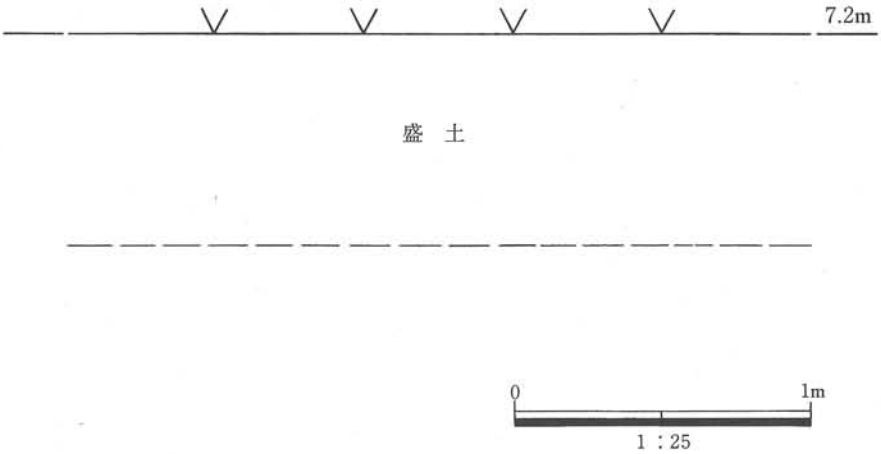


図6　ミクリ遺跡（2008－1）土層模式図

2．ミクリ遺跡（2008－2）の調査

調査地は西町1041－32番地にあたり、小字名は「高川添」である。現状は宅地である。

調査は個人住宅建設工事に先立って工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。約0.8mの盛土が施されており、遺構・遺物は確認できなかった。

（橋本）

図7　ミクリ遺跡（2008－2）調査位置図

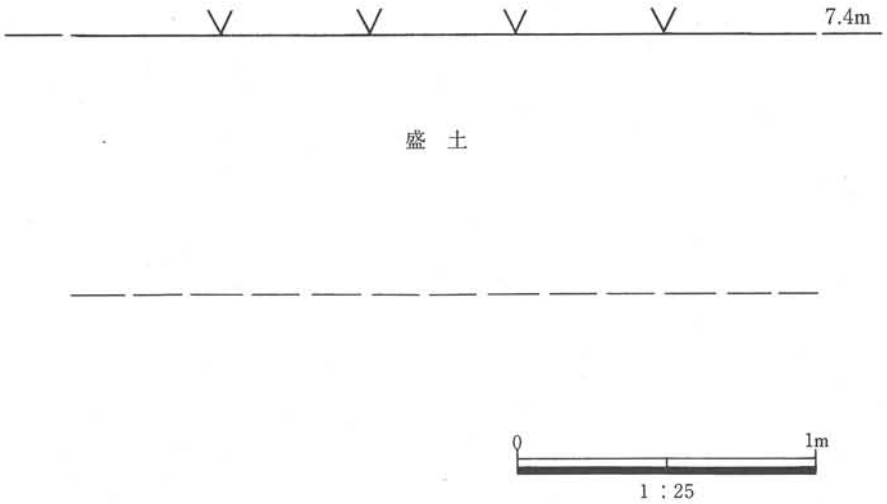


図8　ミクリ遺跡（2008－2）土層模式図

3．ミクリ遺跡（2008－3）の調査

調査地は西町1041－40番地にあたり、小字名は「コイ」である。現状は宅地である。

調査は個人住宅建設工事に先立って工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。約0.5mの盛土が施されており、遺構・遺物は確認できなかった。

（早川）

図9　ミクリ遺跡（2008－3）調査位置図

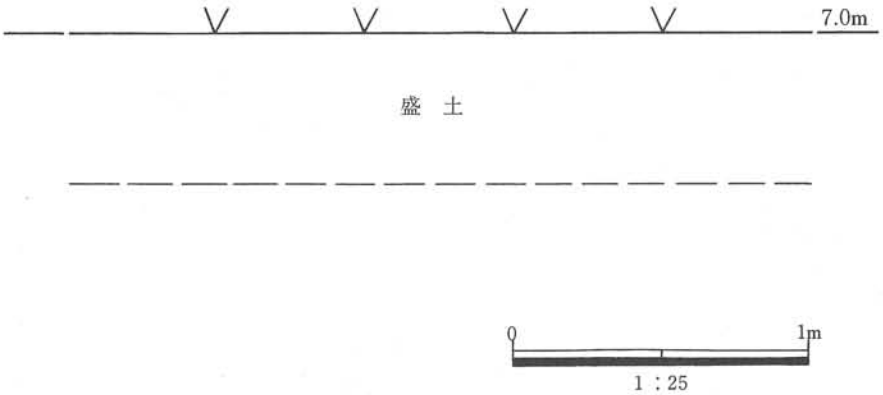


図10　ミクリ遺跡（2008－3）土層模式図

Ⅲ．津之江南遺跡

1．津之江南遺跡（2008－1）の調査

調査地は高槻市津之江北町263－14にあたり、小字名は「岸之下」である。現状は宅地である。

当該地の周辺からは弥生時代の竪穴住居・方形周溝墓、奈良から平安時代の掘立柱建物、鎌倉時代の井戸・溝などが確認されている。

調査は個人住宅建設工事に伴って工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土（橙色砂質シルトなど：0.87m）、耕土（暗灰褐色粘土：0.1m以上）であり、遺構・遺物は確認できなかった。

図11　津之江南遺跡（2008－1）調査位置図

（西村）

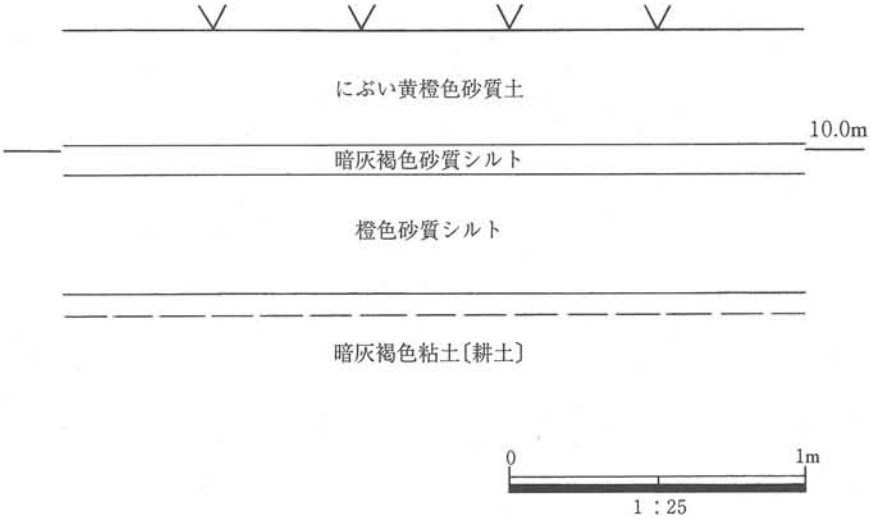


図12　津之江南遺跡（2008－1）土層模式図

2．津之江南遺跡（2008－2）の調査

調査地は高槻市津之江北町263－12にあたり、小字名は「岸之下」である。現状は宅地である。

調査は個人住宅建設工事に伴って工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土（灰褐色砂質土など：0.8m）、耕土（暗灰褐色粘土：0.1m）、床土（淡灰褐色粘土）であり、遺構・遺物は確認できなかった。

（西村）

図13　津之江南遺跡（2008－2）調査位置図

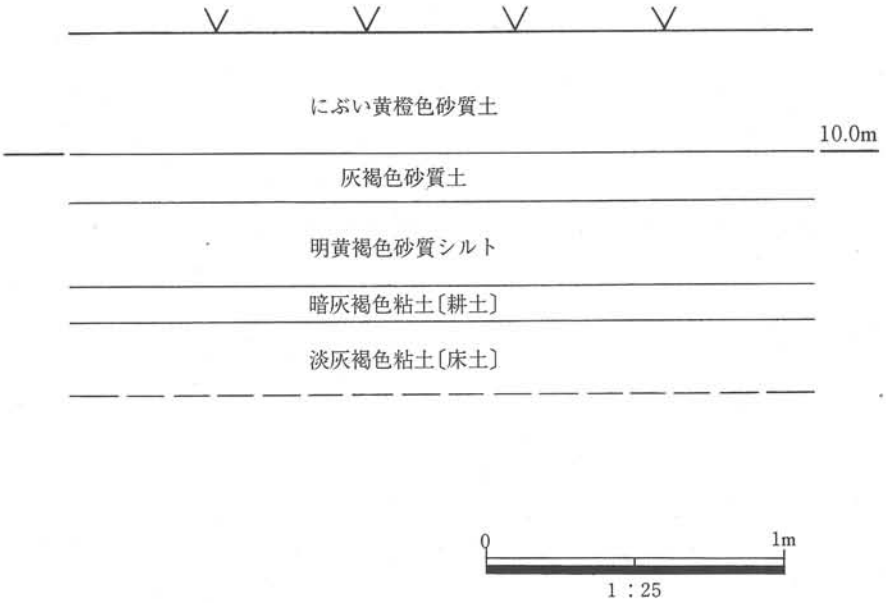


図14　津之江南遺跡（2008－2）土層模式図

Ⅳ．富田遺跡

1．富田遺跡（2008－1）の調査

調査地は富田町六丁目2765－2番地にあたり、小字名は「西富田町」で、現状は宅地である。

当該調査地周辺は富田台地上に位置しており、調査地の周辺では天文元年（1532）の「天文法華の乱」に相当する時期の焼土層や遺物が検出されている。

調査は個人住宅の車庫及び倉庫建設に先立って工事立会を実施したもので、土層の観察と遺構の確認を行った。層序は盛土（淡茶褐色粘質土：0.3m）の下層に、地山の黄灰色礫を確認したが、遺構・遺物、焼土層は確認できなかった。

図15　富田遺跡（2008－1）調査位置図

（早川）

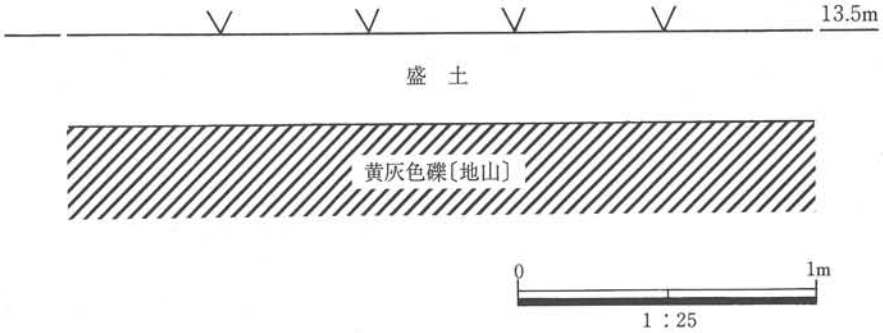


図16　富田遺跡（2008－1）土層模式図

Ⅴ．安満遺跡範囲確認調査

1．安満遺跡の位置と調査

安満遺跡は京都大学附属摂津農場を中心に八丁畷町、高垣町に位置する。北はJR東海道線を越え旧西国街道付近、南は阪急京都線付近、西はJR跨線橋付近、東は桧尾川右岸まで広がる。海抜９～11ｍの微高地上にあり、前面には桧尾川が形成した扇状地から淀川低地につながる豊かな沖積平野が広がる。近年まで、水田地帯として緑が保たれていたが、市の中心部に近く、宅地開発などにより周辺には住宅が密集するようになった（図17）。

図17　安満遺跡位置図

昭和３年（1928）５月、農場が開設された際に発見され、.島田貞彦らが部分的な発掘調査を実施した。この調査は三島で行われた最初の弥生時代遺跡の発掘調査で、出土した土器はＡ・Ｂ・Ｃに分類された。昭和７年（1932)、小林行雄は安満Ｂ類土器が九州の遠賀川式土器に類似し、北九州に伝わった弥生文化が瞬く間に近畿地方まで達したことを証明するものとされ、弥生時代研究が大きく発展した。

農場周辺では、昭和41年（1966）以降、宅地開発などがはじまった。とくに、昭和43年（1968）には農場北側で大規模な宅地造成工事が計画され、事前の発掘調査で東西約120ｍの規模で集落を周ると推定される弥生時代前期の環濠２本が検出された。外側の環濠からは、多量の土器とともに、未製品を含む多数の木製品が出土し、とりわけ多彩な農耕具や漆塗りの櫛・かんざしなどの装身具も含まれ、安満遺跡の重要性があらためて認識された。環濠など重要遺構の発見された部分の保存を要望する高槻市民の運動もあり、昭和44年（1969）３月に史跡仮指定が行われた。その後、関係者の努力により農場北側一帯の東西600ｍ・南北100ｍの約64,000㎡が平成５年（1993）11月に史跡に指定された。

安満遺跡は住居などが集中する居住域、水田・用水路からなる生産域、方形周溝墓を中心とした墓域の三要素で構成され、弥生時代前期から後期までの変化をたどることができる。前期の居住域は環濠で囲まれた農場事務所付近とみられ、環濠内側の様子は不明であるが、工事立会いなどで前期・中期の土器を含む厚い遺物包含層が確認されている。また、農場正

門東側では前期の用水路と丸太杭や板材で造られた井堰が検出され、居住域の南側一帯に水田が広がっていたようである。中期の居住域は引き続き農場事務所付近とJR東海道線付近にも営まれるようになり、居住域の周囲に墓域が形成される。農場東側や農場西北側に総数100基以上の方形周溝墓が築かれ、農場東南部では木棺墓も検出されている。後期には農場東側に居住域が移るようで、高垣町の住宅地から竪穴住居跡や井戸などが検出されている。

農場部分は史跡に指定されていないが、環濠の延長部分など重要な遺構があると推測される。今回、農場内の遺構の分布状況を把握し、保存の措置を講じるために、安満遺跡調査指導検討会の指導のもと、京都大学の協力を得て範囲確認調査を実施した。

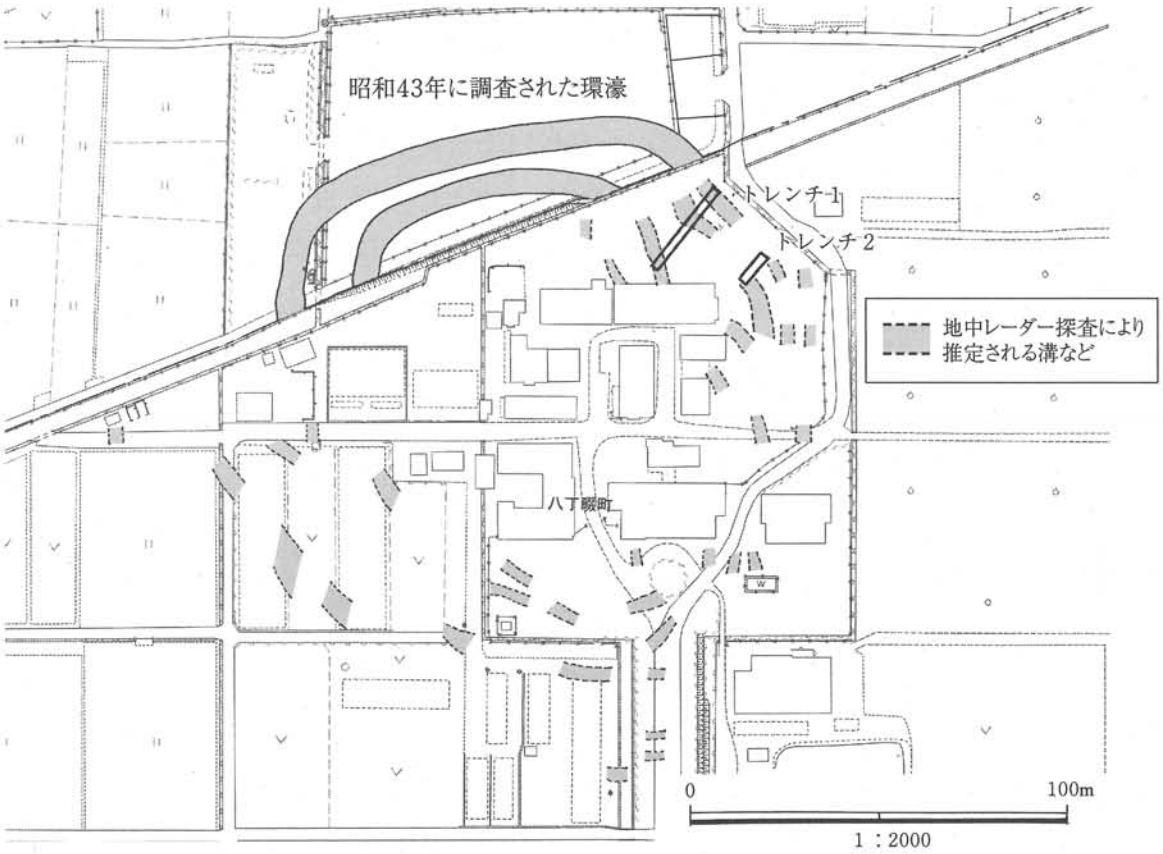


図18　安満遺跡調査位置図

2．層序と遺構

発掘調査に先立って地中レーダー探査とボーリング調査を実施したところ、農場事務所を取り囲むように多数の溝や落込み状遺構の存在が推定された。とくに、昭和43年に調査された環濠が延びると推定される部分にも数本の溝が平行して掘削されている状況がうかがわれた。この成果を参考にして、事務所北東部に２本のトレンチを設定した。西側に設けたものをトレンチ１、東側に設けたものをトレンチ２とした（図18・19）。

トレンチ１、トレンチ２の基本的な層序は表土から約0.6mまでは農場の施設整備に伴う撹乱層や農場設置以前の水田床土（黄灰色粘土または淡褐色土）である。床土を除去すると暗褐色土の遺物包含層となり0.2～0.4mの厚さを測る。主に摂津第Ⅳ様式を中心とする弥生時代中期の土器や石器が出土する。とくにトレンチ１の中央部から北部にかけて厚く堆積している。

この遺物包含層を除去すると厚さ0.5m～0.6mの礫層となり、トレンチ１の大半、トレンチ２の南半部を覆う。礫層の上部は主に灰色礫、下部は青灰色礫である。複雑に堆積し、細かく分層することができ大きな自然流路の様相を呈する。この礫層上面で柱穴などが検出され、上層遺構とする。

トレンチ１の北半部、トレンチ２の北半部では礫層下に黄褐色土または黄灰色砂質土が堆積する。この層を除去すると暗灰色粘土となり、トレンチ１北半部で溝３が、トレンチ２でも溝３の延長部が検出された。トレンチ１南部では礫層下部に灰色砂礫や灰色土が堆積し、灰色土の下部に薄い炭層がみられる。この炭層を追求するとトレンチ１南端にかけて浅い窪みとなり、炭層や下層の暗灰色土からは樹枝や土器が出土し、暗灰色粘土を肩部とする溝状遺構となり、溝１とする。これらを下層遺構とする（図20・21）。

上層遺構　トレンチ１では南端に約30個の柱穴が検出された。竪穴住居の可能性がある。トレンチ北部では長径約２m・深さ0.1mの土坑１と直径約１m・深さ約0.2の土坑２が検出された。土坑１の出土遺物はほとんどみられないが、土坑２からは弥生時代中期（摂津第Ⅳ様式）の壷破片が多数出土し、壷棺墓の可能性がある。トレンチ２では北半部の黄灰色砂質土層、南半部の灰色礫層上面で10個余りの柱穴が検出され、やはり柱穴から中期（摂津第Ⅳ様式）の土器が出土している。

下層遺構　トレンチ１南端の炭層上部の灰色土や灰色礫は溝１埋没後に堆積したもので、炭層や下層の暗灰色土上部を除去すると樹枝や土器破片、木器の未製品が出土した。溝１の北側肩部では完形に復元できる弥生時代前期の壷２点が出土した。また、漆塗りの櫛も炭層の精査中に出土した。溝１の南側肩部は明瞭でないが、溝埋没後の窪みを頼りにすると幅３m以上と推定することができる。また、溝２は明確な肩部を確認できず自然流路の底部が溝状を呈したものとみられるが、礫層には弥生時代前期の土器が含まれている。

土坑３は溝１北側で検出され、長さ1.6m・幅約１m・深さ0.3mを測る。内部には炭の混じる腐食質褐色土・灰色土が堆積する。この炭は溝１上面の炭層につながるもので、溝１と同時期とみられる。

溝３は自然流路下部に検出され、トレンチ１では幅2.5m・深さ0.5m、トレンチ２では幅2.8m・深さ0.5mを測る。図１９にトレンチ配置図を示したが、トレンチ１からトレンチ２にかけて直線的につながることが判る。いずれも溝内に黄褐色礫や黄灰色砂礫が堆積している。トレンチ２では溝内から弥生時代前期の壷・甕の破片と木片、石斧未製品が出土した。

出土遺物　溝１から弥生時代前期（摂津第Ｉ様式）の壷２点が完形で出土した（図版９ｂ）。１は口径15cm・器高31cmを測り、一対の貫孔がある。頸部の削りだし凸帯に一条の沈線を、肩部も段を削りだし３条の沈線を施す。２は口径16cm・器高27.3cmを測り、１に比べ口縁部が大きく外反し、端部外面に一条の沈線がみられる。頸部と肩部、その中間にも３条ずつの沈線を施す。また、２～３条の沈線を施した鉢や甕（図版10a－６・７・９）、段を削りだした壷（８）もある。溝２からは４または５の多条沈線や凸帯を貼り付けた壷の破片、浮文を貼り付けたものもある（１～５）。溝１から完形で出土した２点は、いずれも外面には薄く炭化物が付着している。また、１は口縁部を意識的に打ち欠いているため、溝１の埋没時期に水辺で祭祀的な行為が行われたものとみられる。

石器類には遺物包含層から出土したサヌカイト製の石鏃（図版第10－1～5）をはじめ、粘板岩製の穂摘具（石包丁）は溝１（６）やトレンチ２の柱穴（７）から出土した。溝２からは紅簾片岩製の玉鋸（８）が出土した。他に石錐や石斧の破片などもみられる。

溝１から板材や樹枝に混じり漆塗りの櫛が出土した。「結歯式」と呼ばれる櫛の破片で幅2.6cm・高さ2.4cmを測る。木または竹製の歯に一端を分厚く黒漆で固め、朱漆で仕上げている。三重県の納所遺跡、奈良県の唐古・鍵遺跡などに同じ形状の類例があり、同一工房の製品の可能性がある。

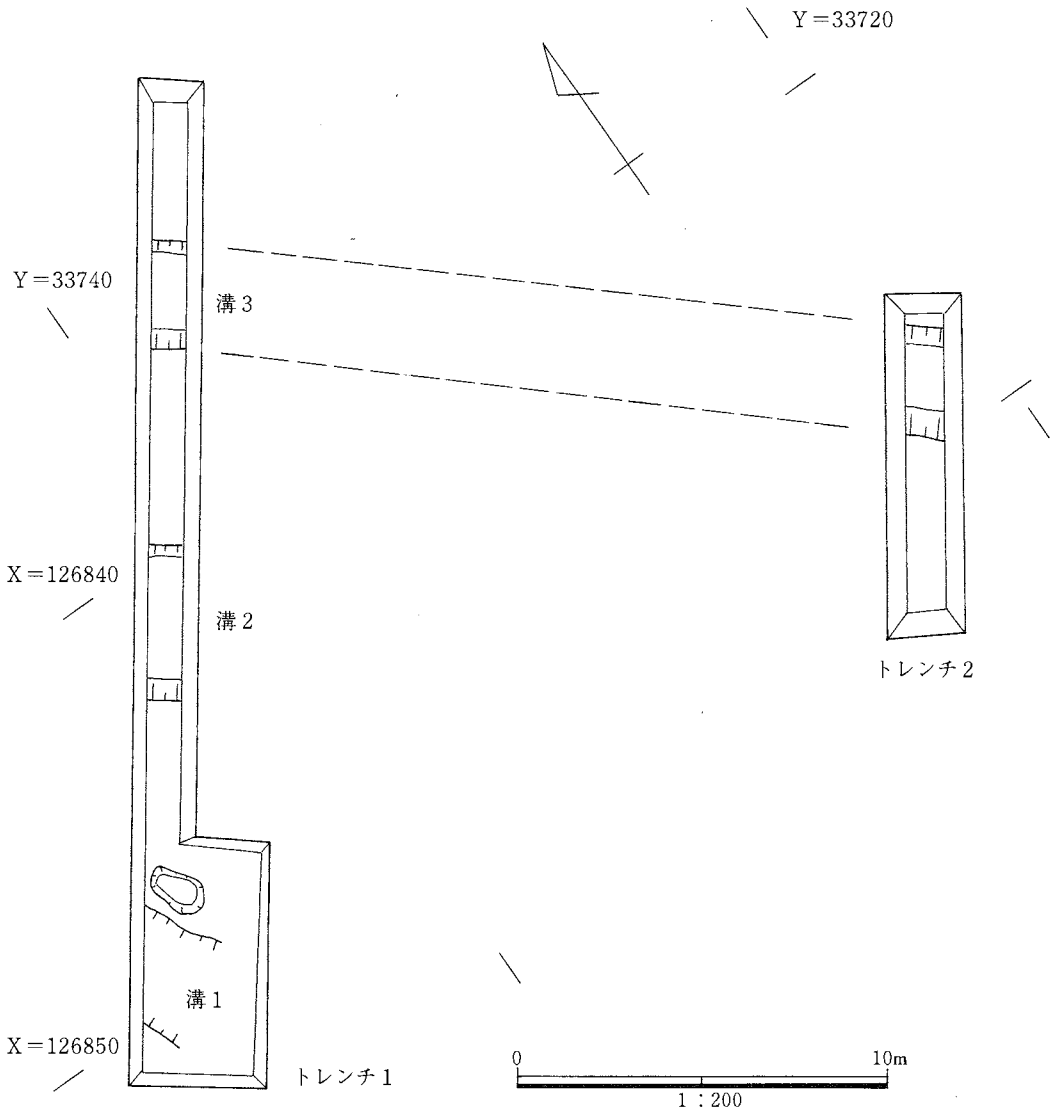


図19　安満遺跡トレンチ配置図

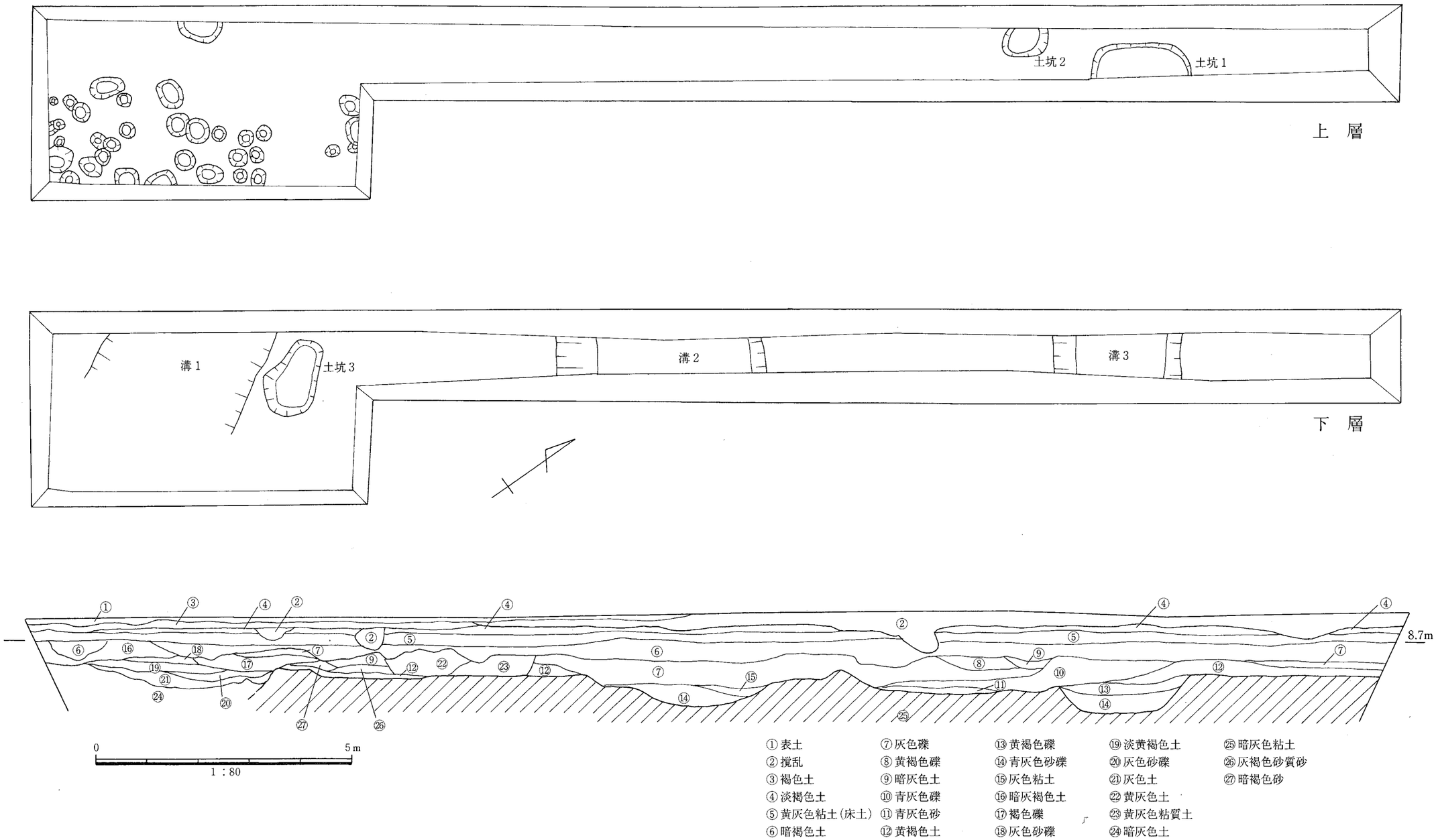


図20　安満遺跡トレンチ1　平面図・断面図

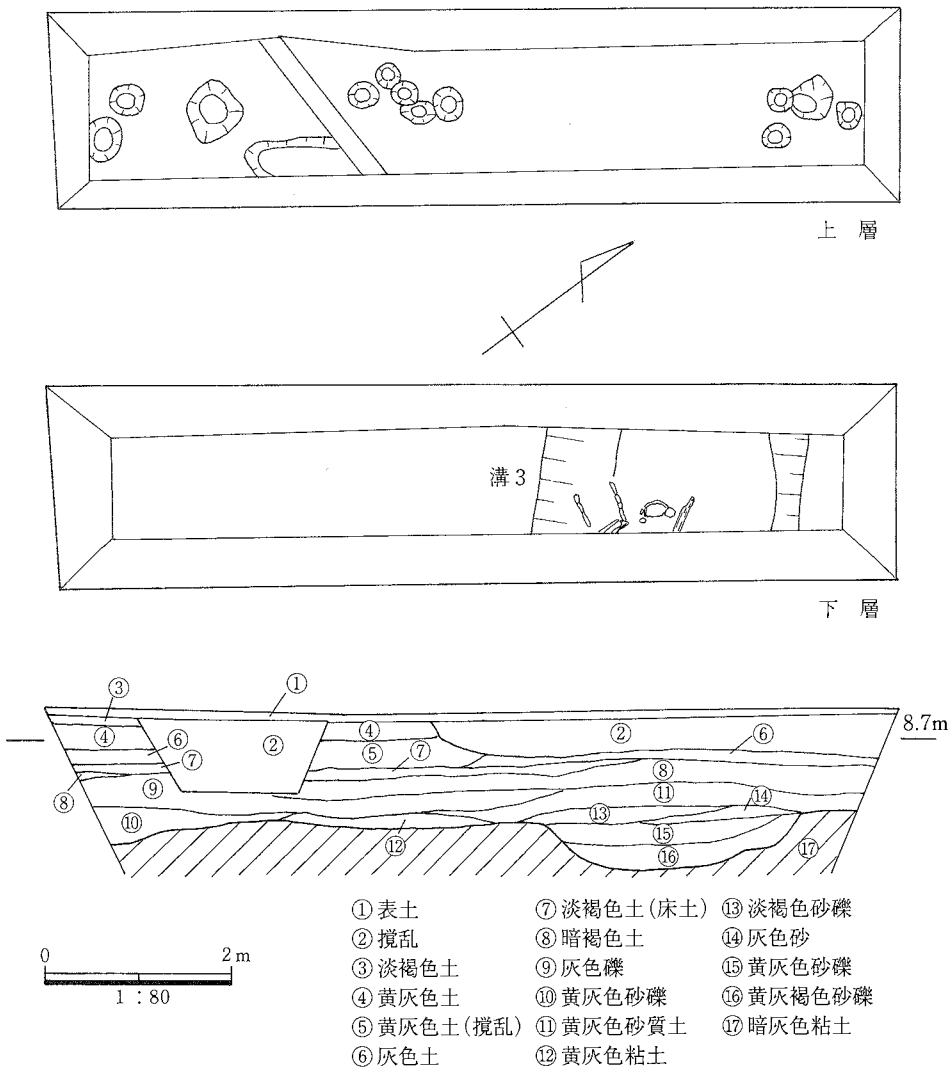


図21　安満遺跡トレンチ２　平面図・断面図

3．まとめ

今回の範囲確認調査で検出された溝１は溝内の樹枝・木器未成品の出土状況からみて、昭和43年に調査された環濠のうち内側環濠の延長部分に相当するものとみられる。溝３もほぼ同時期に存在したものとみられるが、溝１は粘土の堆積により埋没している。一方、溝３の溝内には砂礫が堆積しているため埋没時期に一定の時期差が存在するものとみられ、外側の環濠に連なる可能性が考えられる。溝１・溝３が埋没した後、自然流路とみられる溝２により厚い礫層が形成され、上面に弥生時代中期の遺構が検出される。これらは昭和43年の調査成果に合致するもので、農場事務所付近が安満遺跡の中心部であることが再確認された。

出土遺物で注目されるのは、漆塗りの櫛が出土したことである。昭和43年の調査では、今回出土した櫛とは形状の異なる漆塗りの櫛とカンザシが出土している。漆塗りの製品が複数出土するのは稀で、安満ムラの成り立ちや様相を知る上でも重要な資料となる。

今回の確認調査では、既往の発掘調査による遺構の配置状況とともに、安満遺跡ではじめて実施したレーダー探査の成果に基づきトレンチの位置と規模を設定した。その結果、探査データで示された遺構の推定位置と検出した溝状遺構の符合することが確認され、レーダー探査の有効性が実証された。今後の確認調査においても、探査の有用性を踏まえながら、効率的な確認調査の実施をこころがけ、農場内の遺構の広がりや状況把握に努めていきたい。

いずれにしても、今回の調査で、安満遺跡の環濠の規模や形状を復元するうえで重要な手掛かりが得られた意義は大きく、さらにはこれまで詳細がわからなかった内側環濠のまとまった遺物が確認され、安満ムラの変遷についても貴重な情報がもたらされた。

（橋本）

Ⅵ. 出土遺物保存処理

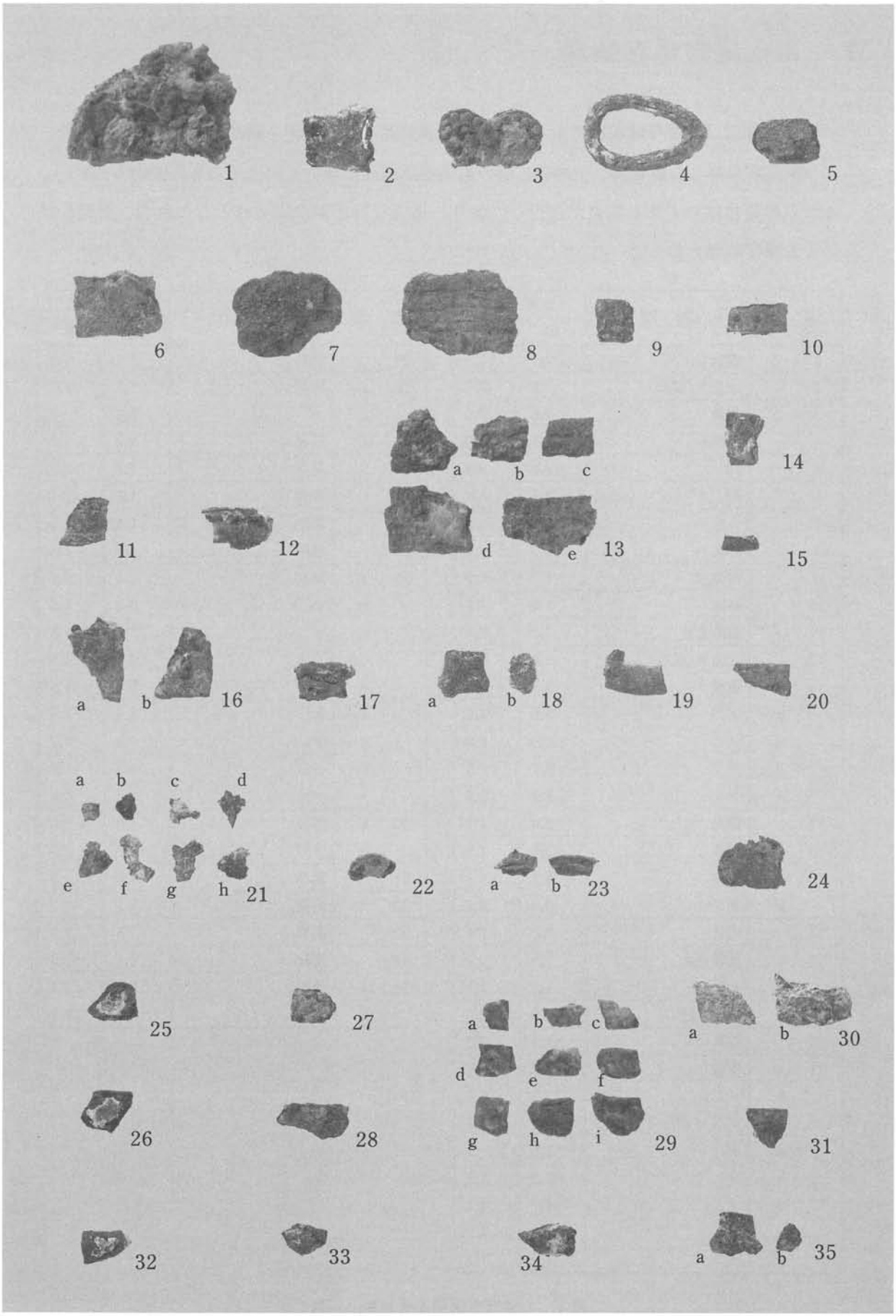
平成20年度は史跡今城塚古墳から出土した金属製品の保存処理を委託事業として実施した。

今回処理を施した遺物は、今城塚古墳の規模確認調査において出土したものである(表1)。これらの遺物はいずれも腐食が進行しており、迅速な対応が求められることから、樹脂含浸による保存処理をおこなった。

番号		種別	法量(cm)	
			縦	横
1		鏡板	7.7	10.3
2		辻金具(雲珠)	3.6	3.7
3		馬具	2.6	4.5
4		刀装具	3.1	4.9
5		剣	2.5	3.8
6		剣	3.1	4
7		小札	3.9	4.8
8		小札	4.3	5.8
9		覆輪	1.7	1.5
10		杏葉	1.2	2.2
11		胡籙金具	2.2	2.1
12		辻金具(雲珠)	1.8	3.1
13	a	鉄板	3.7	3.6
	b	〃	2.5	4.5
	c	〃	2.3	2.9
	d	〃	3.7	5
	e	〃	3.3	5.2
14		馬具	2.4	1.7
15		馬具	0.65	1.5
16	a	雲珠	4.1	3.1
	b	〃	3.3	2.8
17		弓弭	1.5	2.4
18	a	胡籙金具	1.9	2
	b	〃	1.5	1.1
19		杏葉(鏡板?)	1.8	2.6
20		馬具	1.3	2.3
21	a	覆輪	0.7	0.7
	b	〃	1	0.8
	c	〃	1	1.1
	d	〃	1.6	1
	e	〃	1.3	1.3
	f	〃	1.7	1.4
	g	〃	1.6	1.2
	h	〃	1.2	1.2

番号		種別	法量(cm)	
			縦	横
22		馬具	1.1	1.9
23	a	馬具	1.1	1.8
	b	〃	0.9	2
24		馬具	2.2	2.7
25		馬具	1.7	2.2
26		馬具	1.9	2.1
27		覆輪	1.6	1.9
28		覆輪	1.3	2.6
29	a	馬具	1	0.8
	b	〃	0.8	1.5
	c	〃	1	1.5
	d	〃	1.1	1.5
	e	〃	0.9	1.5
	f	〃	1.1	1.5
	g	〃	1.3	1.2
	h	〃	1.3	1.5
	i	〃	1.5	0.8
30	a	馬具	1.9	2.9
	b	〃	2.3	2.4
31		馬具	1.6	1.7
32		馬具	1.3	2
33		馬具	1.4	1.9
34		覆輪	1.4	2.6
35	a	馬具	1.9	2.4
	b	〃	1	1.2

表1　今城塚古墳出土金属製品一覧


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
a
b
c
14
11
12
d
e
13
15
a
b
16
17
a
b
18
19
20
a
b
c
d
e
f
g
h
21
22
a
b
23
24
25
27
a
b
c
d
e
f
a
b
30
26
28
g
h
i
29
31
32
33
34
a
b
35

抄　　録

フリガナ	シマガミイセキグン
書名	嶋上遺跡群
副書名	
巻次	33
シリーズ名	高槻市文化財調査概要
シリーズ番号	36
編集者名	鐘ヶ江一朗　橋本久和　宮崎康雄　高橋公一　早川圭　西村恵祥　佐伯めぐみ　廣瀬智子
編集機関	高槻市教育員会文化財課埋蔵文化財調査センター
所在地	大阪府高槻市南平台五丁目21−1
発行年月日	2009年3月

フリガナ 所収遺跡名		タカツキジョウアト 高槻城跡（2008−1）				
フリガナ 所在地		オオサカフ タカツキシ オオテチョウ 大阪府高槻市大手町1134−1・2の各一部				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 88″	135° 37′ 10″	20080402 〜 20080414	48.85m²	個人住宅 建設工事
27207	85					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
高槻城跡	城館	近世				

フリガナ 所収遺跡名		タカツキジョウアト 高槻城跡（2008−2）				
フリガナ 所在地		オオサカフ タカツキシ デマルチョウ 大阪府高槻市出丸町990−71他				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 46″	135° 37′ 01″	20080508 〜 20080509	立会	個人住宅 建設工事
27207	85					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
高槻城跡	城館	近世				

フリガナ 所収遺跡名		ミクリイセキ ミクリ遺跡（2008−1）				
フリガナ 所在地		オオサカフ タカツキシ ニシマチ 大阪府高槻市西町1041−33				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49′ 01″	135° 35′ 48″	20080415 〜 20080416	立会	個人住宅 建設工事
27207	138					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
ミクリ遺跡	集落	弥生				

フリガナ 所収遺跡名		ミクリイセキ ミクリ遺跡（2008−2）				
フリガナ 所在地		オオサカフ タカツキシ ニシマチ 大阪府高槻市西町1041−32				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49′ 68″	135° 35′ 36″	20080519 〜 20080520	立会	個人住宅 建設工事
27207	138					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
ミクリ遺跡	集落	弥生				

フリガナ 所収遺跡名		ミクリイセキ ミクリ遺跡（2008−3）				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ ニシマチ 大阪府高槻市西町1041−40				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49′ 28″	135° 35′ 37″	20080702	立　会	個人住宅 建設工事
27207	138					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
ミクリ遺跡	集　落	弥　生				

フリガナ 所収遺跡名		ツノエミナミ イセキ 津之江南遺跡（2008−1）				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ ツノエキタマチ 大阪府高槻市津之江北町263−14				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 10″	135° 36′ 07″	20080512 ～ 20080513	立　会	個人住宅 建設工事
27207	43					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
津之江南遺跡	集　落	弥　生				

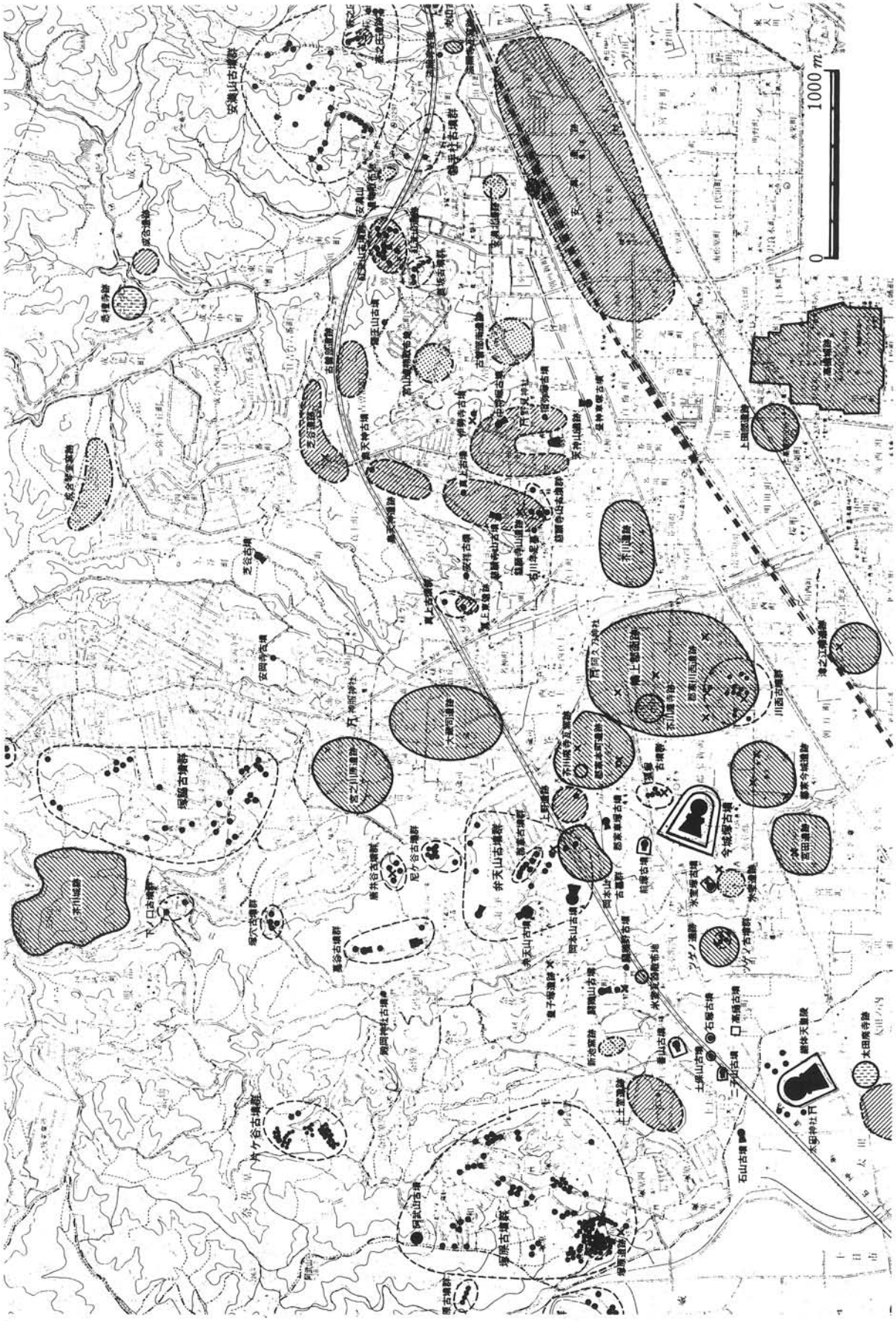
フリガナ 所収遺跡名		ツノエミナミ イセキ 津之江南遺跡（2008−2）				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ ツノエキタマチ 大阪府高槻市津之江北町263−12				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50′ 40″	135° 36′ 07″	20080514 ～ 20080515	立　会	個人住宅 建設工事
27207	43					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
津之江南遺跡	集　落	弥　生				

フリガナ 所収遺跡名		トンダイセキ 富田遺跡（2008−1）				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ トンダチョウ 大阪府高槻市富田町六丁目2765−2				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49′ 54″	135° 35′ 23″	20080421 ～ 20080422	立　会	個人住宅 建設工事
27207	46					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
富田遺跡	集　落	中　世				

フリガナ 所収遺跡名		アマ イセキ 安満遺跡（範囲確認調査）				
フリガナ 所　在　地		オオサカフ タカツキシ ハッチョウナワテチョウ 大阪府高槻市八丁畷町260・266				
コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 51′ 34″	135° 37′ 42″	20081126 ～ 20090331	90㎡	範囲確認
27207	83					
所収遺跡名	種　別	時　代	主　な　遺　構	主　な　遺　物		特記事項
安満遺跡	集　落	弥　生	溝	土器・石器		

図　　版

図版第1

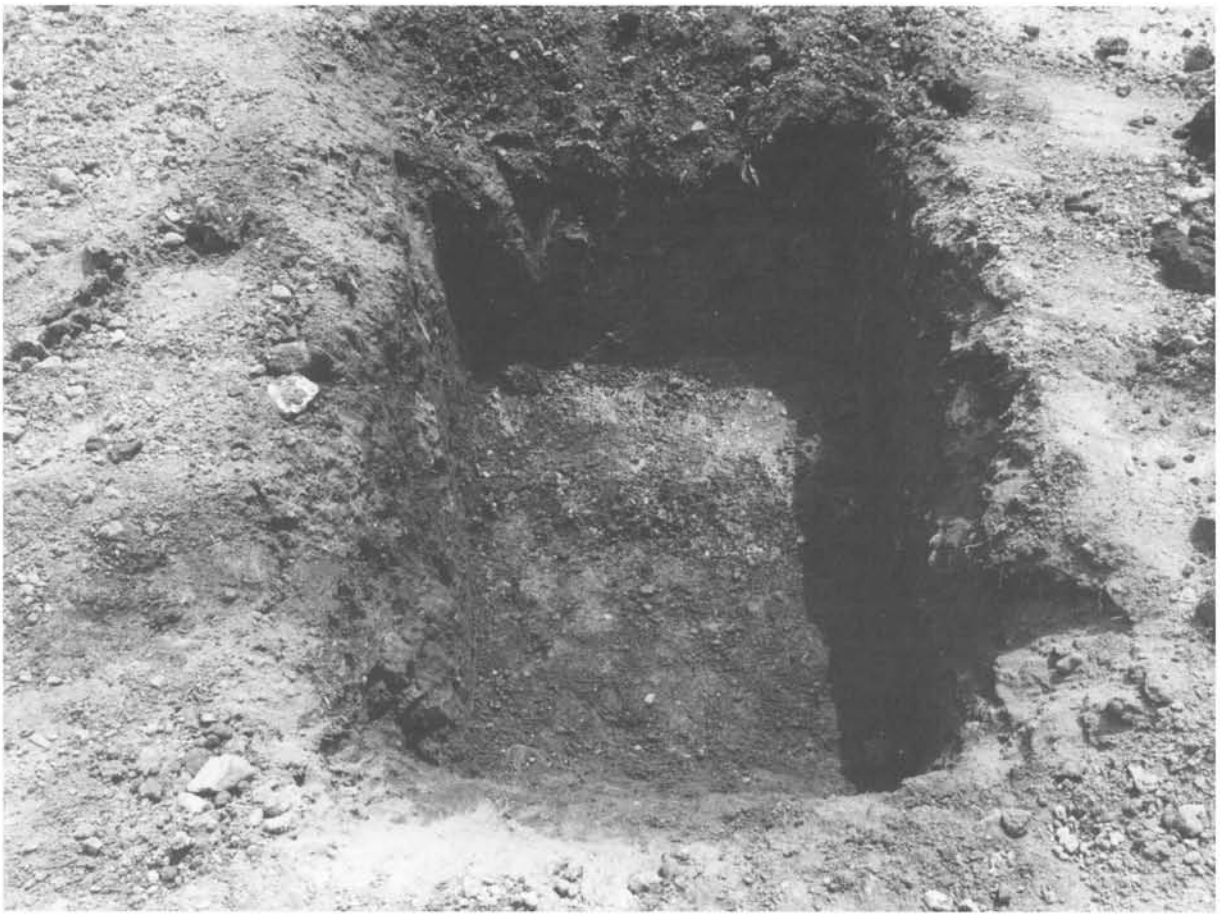


嶋上郡衙跡とその周辺

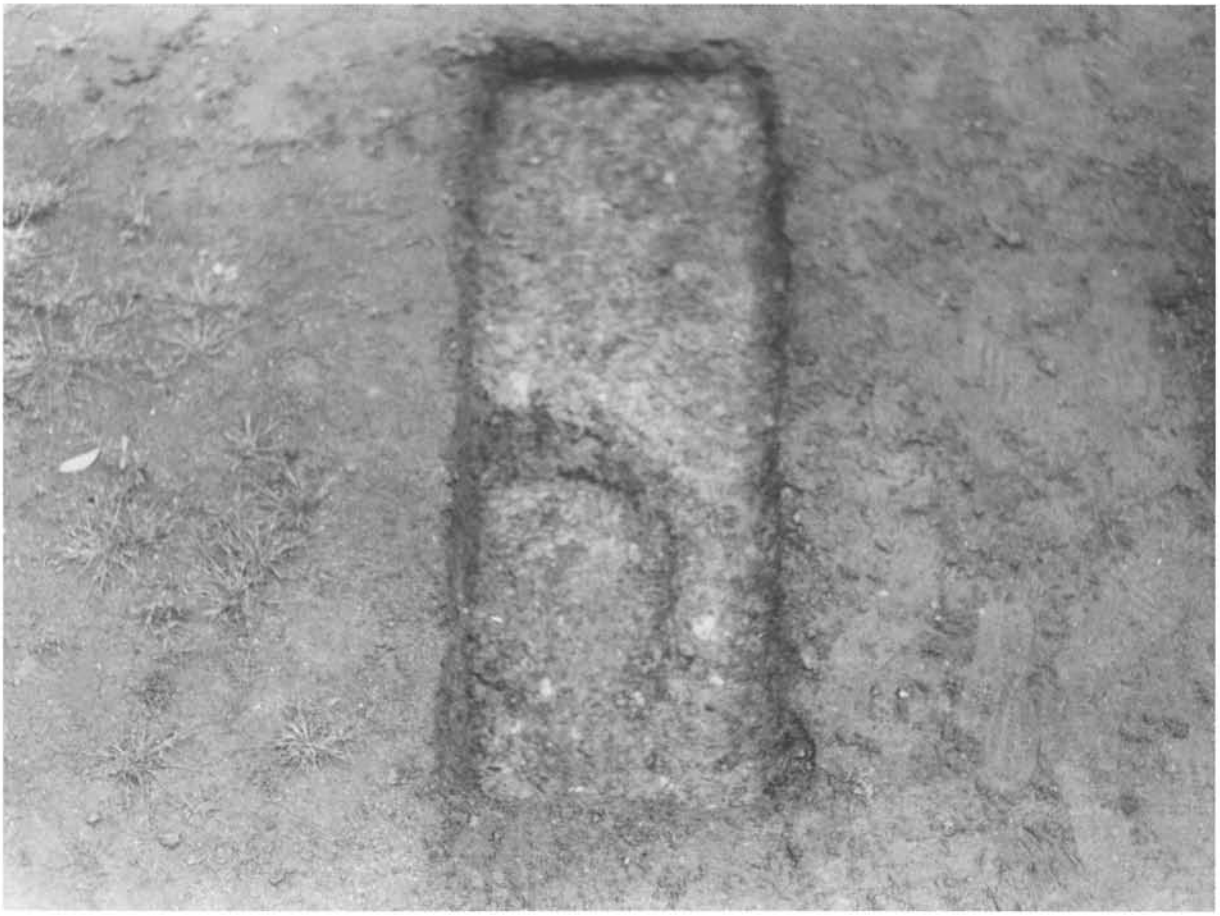
図版第2

a. 高槻城跡（2008−1）調査区全景

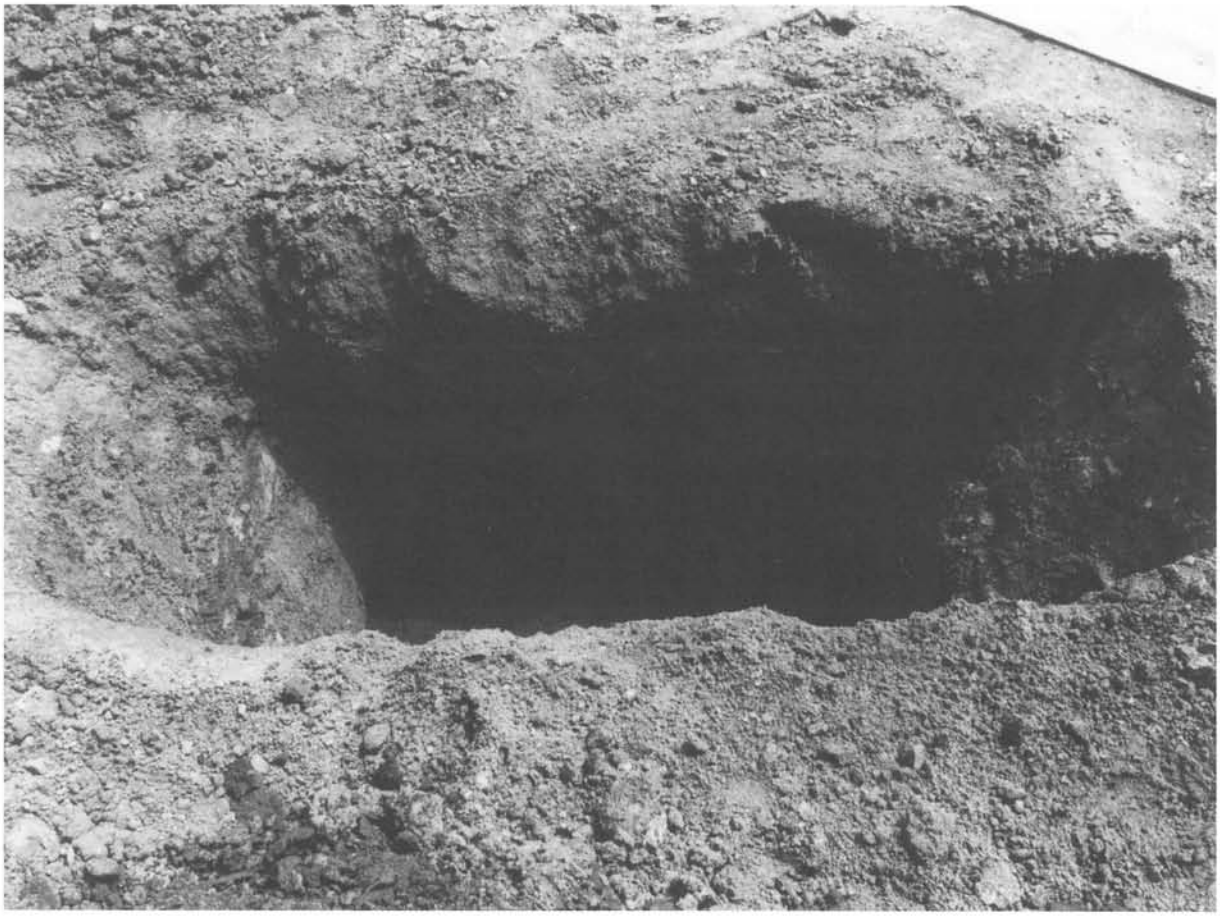
b. 高槻城跡（2008−2）北壁



a. 高槻城跡（2008−2）調査区全景



b. ミクリ遺跡（2008−1）調査区全景



a. 津之江南遺跡（2008−1）調査区全景

b. 富田遺跡（2008−1）調査区全景

a. 安満遺跡全景

b. トレンチ1南部上層（南側から）

a. トレンチ１北部上層（南側から）

b. トレンチ１南部上層・下層（南側から）

a. トレンチ１南部下層（南側から）

b. 溝１土器出土状況（東側から）

a. トレンチ１北部下層（北側から）

b. トレンチ２上層（西側から）

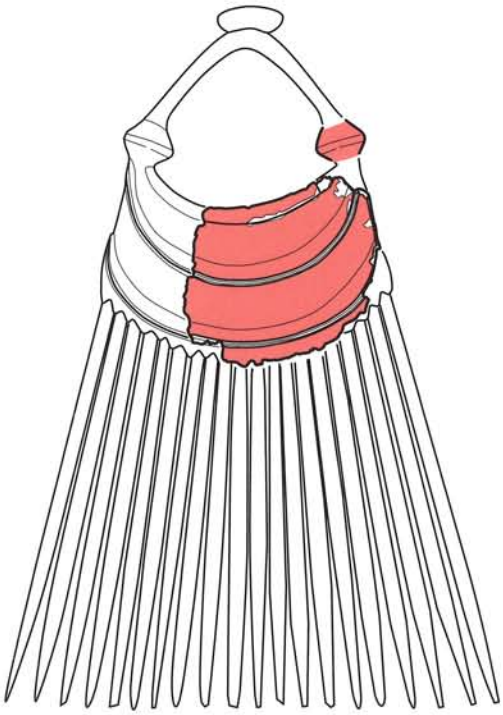
a. トレンチ２　溝３土器出土状況（西側から）

b. 溝１出土土器

a. トレンチ1出土土器　溝1（6～9）　溝2（1～5）

b. トレンチ1・2出土石器　溝1（6）　溝2（8）　トレンチ2柱穴（7）　包含層（1～5）

漆塗り櫛　左：裏面、右：表面（2倍）



漆塗り櫛の復元案（実大）

溝1出土の漆塗り櫛

高槻市文化財調査概要 36

嶋上遺跡群 33

平成 21 年 3 月 31 日

発　行　高槻市教育委員会
文化財課　埋蔵文化財調査センター
高槻市南平台五丁目21番1号

印　刷　株式会社　邦文社
大阪市東淀川区大桐1丁目4番9号